

<祈りのすすめ>

「さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」

(ルカによる福音書10章36～37節)

よく知られている「善いサマリア人の話」ですが、初めてこれを聞いたユダヤの人々には衝撃であったでしょう。サマリア人とは隣同士でありながら、ほとんど交流がなかったからです。

ユダヤ人とサマリア人は元々同じ民族でした。しかし紀元前8世紀にサマリア地方を占領したアッシリアが、この地を植民地として多くの外国人を送り込んだために、もとの住民と融合したサマリア人という混血の民族が出来あがったのです。ユダヤ人はこの人々を軽蔑しました。紀元前6世紀にユダヤ人がエルサレムに神殿を再建しようとした時、サマリア人が協力を申し出たのですが、これはあなたたちの仕事ではないとにべもなく拒否されてしまいました(エズラ4:1～5)。こうしたことの結果、サマリア人はゲリジム山に神殿を築いて、ユダヤ人とは別の道を歩むことになったのです。その後、サマリア人はシリアと組んでユダヤ人を攻撃し、ユダヤ人はその報復としてゲリジム山の神殿を焼き払ってしまいます。憎しみが憎しみを呼び、二つの民族は絶縁してしまったのです。

ユダヤ人にとって、このサマリア人が追いはぎに襲われたユダヤ人を救ったというのは信じられないようなことでありました。それは現代に置きかえてみると、何かの事情で日本人が大変な危険にさらされた時、命を救ってくれたのが、日本と犬猿の仲である北の某国の人だったというようなことです。ただ、ここで覆された他

民族への偏見、彼らは劣っている、信頼できない、戦争好きで野蛮な国民などという決めつけが今もまかり通っています。

国内で犯罪事件があって、犯人がA国人だったとすると、だからA国は、と思われがちですし、またある民族の「劣った」点を「学問的に」あげつらうこともひんぱんに見られますが、しかしそういうことは慎重にすべきです。その民族の優れた点を語るのには良いのですが、「劣った」点については、その民族の中でもいろいろな人がいますから、そのことを前提にした上で、統計的に信頼できるデータが示されでもしない限り、それが絶対であるかのように語るべきではないと考えます。

日本国憲法前文に「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と書いてあることをめぐり、中国や北朝鮮を見ればこんなことは言えないではないかという議論があります。その議論にアメリカが登場しないことはひとまず置くとしても、憲法が語っているのは、国家ではなく諸国民であり、人間です。国は信頼できない場合が多いのですが、たとえどんな国であっても、大多数の、普通の人々が戦争を憎み、平和を愛するということでは何ら変わりありません。そこに信頼するのは当然なのです。

国民と国民、民族と民族の間で、互いに「劣った」ところを言い立てるのではなく、共通点を再認識し、今度は優れた点を学び合うことで、本当の隣人同士となることが求められています。

<祈り> 神様、私たちはこれまで、自分にとっての隣人を狭い範囲に求めすぎていました。今後は、心を開いて、これまで隣人とは思っていなかった人の隣人になることが出来ますよう、導いて下さい。(井上 豊 広島長束教会牧師、大会靖国問題特別委員会委員)

## 新シリーズ『いま なぜ 大嘗祭か』を読みなおす（13）

小塩海平（東京告白教会長老）

卒業式シーズンを迎えますので、今回は「君が代」を取り上げます。

Q24 「君が代」は歌ってもよいのでしょうか？

A いかなる歌を歌うかということは、その人の物の考え方や生き方と関わっています。例えば、わたしたちキリスト者は、わたしたちの信仰に基づいて讚美歌を歌って、神をほめたたえるのです。

「君が代」を歌うということは、その歌詞に同意し、その内容を告白していることを意味します。「君が代は、千代に八千代に、さざれ石の巖となりて、苔のむすまで」。この「君が代」の歌詞は、戦前の国定教科書では「わが天皇陛下のお治めになるこの御代が、千年も万年も、いやいついつまでもいつまでも続いてお栄えになるように」と説明されています。「君」を天皇と結びつけない無理な解釈もありますが、「君が代」が天皇賛美の歌であることは歴史が証明しています。（以下略）

新 Q24-1. 前回の問答は、「君が代」を歌ってよいかどうかについて、信仰告白の問題として捉えていますね。

新 A24-1. そうですね。間違っていないと思いますが、実際に「君が代」問題に直面している当事者たちにとっては、冷淡な言い渡しのように聞こえるのではないのでしょうか。卒業式をはじめとする学校行事において「君が代」の斉唱が罰則を伴って強制されている現在、学校の教師や生徒が「君が代」を歌わないでいることができるかどうかは、当事者の信仰告白の問題である以上に、教会闘争の課題というべきです。つまり「君が代」問題の本質は、公権力による信仰あるいは良心の自由への介入ですから、それに対する抵抗は、教師や生徒の個々の闘いに任せてしまうのではなく、教会の公的な使命あるいは奉仕として行わなければならないはずです。日本キリスト教会には、「君が代」に対する抵抗運動を、アジア的な教会の交わりの中で、あるいは神の国の地平に立って推し進めていく義務があると思います。

とくに、牧師や長老たちは、君が代が強制されるような状況に出くわさない場合が多いはずですから、現場でどのようなことが起きているのかを把握する努力をし、信仰告白の決断を迫られている魂のために祈り、励ますことが必要です。衆目の中で「君が代」を歌わずにいるには、勇気と覚悟が必要で、それは祈りと訓練によらなければ養われませんから、教会を挙げて、この問題に取り組むべきです。教会が学校に対して「君が代」の強制をやめるよう申し入

れをし、教会員が卒業式に参列する機会があるなら、祝福と励ましのために、牧師や長老は同席する努力をすべきではないでしょうか。

新 Q24-2. ところで、前回の問答は歌詞についてのみ取り上げており、作曲者については触れていませんね？

新 Q24-2. 確かに、そうですね。「君が代」は当初、ドイツ人のエッカートの作とされてきましたから（下図参照）、「国歌」というには格好がつかず、作曲者問題は隠蔽されているようです。紙面が限られているので、詳しく触れられませんが、エッカートは海軍省から、曲のアレンジではなく作曲を依頼されており、届けられた旋律の中から奥好義おくよしきがつくったものを選び、現在の「君が代」を完成させたとされています。ただ、奥好義作とすると格が下がるため、林広守はやしひろもり撰という

ことになり、やがてエッカートの名前は不当にも葬り去られました。

エッカートは大韓帝国国歌「愛国歌」の作曲者としても知られており、ソウルの墓地に葬られました。



## 首里城の火災について

川越弘(沖縄伝道所、大会靖国神社問題特別委員会委員)

2019年10月31日未明、多くの県民がテレビに釘づけになって、首里城が焼け落ちるさまを見た。なすすべのない光景に、我が身を引き裂かれたような悲しみと喪失感に沖縄中が包まれた。その驚きと悲しみは日本全国の人々をも襲った。しかしその時を過ぎた今、沖縄の多くの人々の心情は意外と冷めている。それは一体なぜか。

焼失した首里城は、日本復帰(1972年)後の知事西銘順治の働きかけもあって、1992年、復元が実現した。政府が積極的に応えた理由は、返還された「本土と沖縄との一体化」を必要としていたからである。そうして国費で再建し、首里城の周囲を「国営公園」としたために、首里城を沖縄に返せという声がある。その一方、沖縄の歴史研究者や職人たちは「(首里城の復元を通して)大日本帝国によって打ち捨てられてきた沖縄の文化・伝統・技術を調べ直し、叡智を結集し再構築した。それは、明治政府による琉球処分から沖縄戦、サンフランシスコ講和条約での沖縄切り捨てに至るまで、本土に蹂躪され続けてきた沖縄のアイデンティティを再発見し取り戻す作業であった」という。

しかし首里城の歴史を見ると、決して単純ではない。琉球王府は、宗教とつながった中央政権による支配構造であった。王は自分の娘や妹を「聞得大君(きこえのおおきみ)」という最高の神職にし、沖縄全島の「のろ」(祝女・琉球信仰の女性祭司・アニミズムと祖霊信仰を基本)を統一させて、民衆の信仰と首里王府の支配を固く結びついた男尊女卑の社会を建て上げた。農民は

愚民扱いにされ、年貢を搾り取るように搾り取られ、年貢が重すぎて負債で払えなくなって身売りする者も出た。暴風や干ばつにみまわれると、飢え死や疫病で死んだ人が数千人に上った。

薩摩に支配されてからは、琉球王府は多額の年貢を島津に収めるために、宮古・八重山の人々に過酷な労働を強いて、重い人头税を課した。その実態を知るとき心が裂けるほどに悲しくも痛々しい。首里城の支配体制は一部の貴族を優遇し、沖縄島や周囲の島々の農民を奴隷のように扱ってきた。それゆえ、沖縄の人々の誇りであり観光シンボルとなっている首里城のこれまでの歴史を忘れてはならない。

2019年10月29日、文化庁は2022年に日本復帰50年を迎える沖縄で、「第37回国民文化祭」を開催することを内定して、玉城デニー知事に内定書を手渡した(その2日後に首里城が焼落した)。「国民文化祭」とは、アマチュアを中心に、歌や演奏、演劇、民俗芸能、囲碁将棋、空手などの様々な文化活動を発表し交流する大イベントである。知事は、本土復帰50周年を迎える2022年までに、首里城の再建計画を策定すると発表した。ここで注意すべきは、「国民文化祭」と首里城復元の始まりに、新天皇徳仁の「おことば」が語られることである。その意図は、「統合の象徴」である天皇を軸にして、「日本人の心は一つである」と企てる「政府と沖縄民衆との統合」にあるのではないか。琉球の独立意識と自己決定権がもみ消され、辺野古基地反対運動が下火になることを危惧する。

## <ヤスクニ関連ニュース>

\*は報告者（古賀）コメント

### ○「麻生副総理がまた不適切発言 『日本 は一つの民族』

麻生太郎副総理兼財務相は13日、福岡県直方氏で開いた国政報告会で、日本について「二千年の長きにわたって、一つの民族、一つの王朝が続いている国はここしかない」と述べた。昨年4月に法律として初めて「アイヌ民族支援法」が成立しており、麻生氏の発言は不適切との批判を浴びる可能性がある。

麻生氏は、多国籍選手で構成されたラグビーワールドカップ日本代表の活躍などを例に「(日本は)インターナショナルになっている。それが力を生んでいる」と評価。その上で、国際的な日本の「存在感」に触れる中で「一つの民族」に言及した。

同日、同県飯塚市の国政報告会でも「2千年にわたって同じ民族が、同じ言語で、同じ一つの王朝を保ち続けている国など世界中に日本しかない」と発言した。(西日本新聞：1, 13)

\*この発言に対して、「政府の方針と異なる」との批判や反論が挙げられ、麻生氏は「誤解を与えたならお詫びし訂正する」と応じたが、その批判の論点も危うい。「歴史的事実と異なり、それを確認した国会の決議に反する」と批判すべきであり、アイヌ民族に対して謝るのが筋であろう。それだけでなく日本列島は古代以来、朝鮮民族や琉球民族、北方民族などとの複合的な構成で営まれてきた事実を明確にして訂正すべき。「一つの王朝」との虚構に対しても批判的検証が必要。なお、静内アイヌ協会は抗議を表明し辞任を求めている。(1月21日)。

### ○「脳出血のベトナム人実習生 意識不明で近く在留期限切れ 支援団体『差別なく対応を』

札幌で実習中のベトナム人技能実習生が2019年9月、脳出血で倒れて意識不明の状態となり、入院を余儀なくされている。20年3月の在留資格

の期限が切れると不法残留となって原則は母国に送還されるが、札幌出入国在留管理局によると、回復見込みのない意識不明の実習生は「想定外」で、対応に苦慮している。家族は日本での治療継続を希望し、支援団体も「日本人と命の差別はない」として国や自治体に対応を求めている。・・・トウさんが教会に通っていた関係で支援するカトリック札幌司教区・難民移住移動者委員会の西千津さん(55)は「受け入れているのは労働力ではなく人権を持った人。いろいろなケースが起こると認識し、日本人と命の差別のない受け入れ態勢を整えていく必要がある」と訴える。(毎日：1, 16)

\*移民として労働者として受け入れようとならない日本政府の意固地さ、その根本には上記麻生氏のような天皇中心単一民族国家論という靖国思想の裏返しの排他主義がある。

### ○「卑劣な『在日コリアン虐殺宣言』年賀状を許さず、国と市に緊急対応を求める声明」

今年1月6日、川崎市の多文化交流施設「川崎市ふれあい館」に、「謹賀新年 在日韓国朝鮮人をこの世から抹殺しよう。生き残りがいたら残酷に殺して行こう」と書かれた年賀状が届きました。・・・年明けからの13日間、前年比で、子どもを中心に利用者数が508人、4分の1近く減少するなど、すでに具体的な悪影響が生じており、この脅迫葉書は多文化共生を妨害する犯罪行為(威力業務妨害罪)であることが明らかです。・・・(1月20日発表、外国人 인권法連絡会)。

\*この声明に当委員会と人権委員会とが賛同しました。さらに団体・個人で賛同者を募っています。

781号ヤスクニ通信 2020年2月9日

発行 日本キリスト教会

靖国神社問題特別委員会

発行人 古賀清敬、編集 小塩海平、

発行 芳賀繁浩(日本刊外教会大会事務所)

<編集後記> 国や民族単位での敵対関係を越えてこそその隣人愛/日の丸・君が代強制に教会としてどう抵抗するのか/首里城火災にかこつけて政府が基地問題での沖縄県の妥協を追及するなら、火事場泥棒の所業と同じ/外国人労働者無くして日本はすでに存続しえない現状を、プロテスタント教会は新たな隣人問題として認識していないと痛感する。日本人だけの枠組みでしか教会の未来を考えないなら、麻生妄言とどこが違うのか、反省。(K生)